

戦前期農家経済調査 DB

<概略>

2012年11月

目的: 日本の農家経済調査から抽出した個票データをパネルデータとして編成する。
また、そのパネルデータを用いて、戦前期の農家の資産蓄積行動について実証分析を行う。

DB 作成者¹: 北村行伸（一橋大学経済研究所、研究分担者）、佐藤正広（一橋大学経済研究所）、草处基（東京農工大学）、丸健（一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター）、高島正憲（一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程）

データソース: 農林省農家経済調査

対象期間²: 1931年（昭和6年）から1941年（昭和16年）

対象: 全国

変数: 家族構成に関する変数、財産に関する変数（期首・期末の土地、土地改良設備、建物、農具、動物、植物、現物、負債、現金・準現金）、農業収入に関する変数（稲作収入、麦作収入、養蚕収入、養畜収入など）、農業経営費に関する変数（経常財投入費、労賃、小作料など）、家計費に関する変数（飲食費、被服費、教育費、冠婚葬祭費など）、労働に関する変数（各世帯員の農業、兼業、家事労働時間など）

サンプル規模: 原資料は全国の個票データ。2012年11月時点では第3期農家経済調査を対象とし、その中から11年間（各年1道府県あたり6世帯または9世帯が対象）16府県（秋田、福島、茨城、東京、新潟、富山、山梨、長野、静岡、愛知、大阪、島根、広島、徳島、福岡、宮崎）の、延べ1,071戸を抽出。個票の散逸によるパネルの切断や、対象期間内の調査対象農家の入れ替わりのため、全調査期間でパネルとしてつながっているデータは5戸のみ。パネルデータ編成作業は現在も進行中であるため、いくつかの欠損データは今後補完される予定。

公開・非公開: 非公開

今後の調査・作業予定:

- ・欠損データの補完
- ・他の府県も含めたパネルデータの編成
- ・各資産の構成要素をさらに分解する、消費のデータを活用するなどの作業を通して、

¹ 2012年11月現在のDB作成作業担当者

² 2012年11月現在のDB作成対象期間

より詳細なデータを編成する

- ・昭和恐慌の回復期から戦前期への移行過程の農家経済の実態に関する実証研究

これまでの主要なファインディング:

草処基・丸健・高島正憲 (2012)

- ・昭和恐慌からの回復期において、農家は現金・準現金の蓄積を重視し、農具や建物などの固定性の高い生産資産の蓄積には積極的ではなかったと考えられる。
- ・現金・準現金及び農業資産は、農業生産のショックに反応して減少していた。特に、農業資産の中でも流動性の高い動物及び現物資産が強く反応していた。これは消費平準化のための予備的貯蓄を背景とした資産の蓄積過程と整合的である。
- ・昭和恐慌後の農家は固定性の高い生産資産の蓄積には消極的で、実質ベースでは減少傾向にあるという結果が得られた。速水 (1973)では、生産性の計測において、昭和恐慌後も生産資産の蓄積が進むことを仮定したデータが使用されており、昭和恐慌後の生産資産の蓄積について検証される必要がある。
- ・友部 (2007)が示した近世・近代の日本農家において消費力の上昇が経営農地を増加させるというメカニズムが、昭和恐慌後の日本農業でも認められた。
- ・農地面積の蓄積に対し自作率は負に有意であった。これは栗原 (1974)の「自小作前進」を支持する結果である。

浅見淳之編 (2011)、浅見淳之 (2012)

- ・戦前期の農林省農家経済調査で用いられた簿記デザインの変遷を、単式簿記における二面計算デザインの獲得という側面から整理した。第3期農家経済調査の簿記デザインは二面計算の萌芽的段階であり、その後の大槻式簿記の導入により二面計算が単式簿記である農家経済簿記に完全に組み込まれたことが明らかにされた。

草処基 (2012)

- ・統計書に個票が添付されている第2期農家経済調査の個票データを用いて、複合経営の多財生産関数を計測した。耕種・養蚕間には強い代替関係が認められ、戦前期に主流であった耕種・養蚕複合経営の長期的存立は、生産技術単体では支持されないことが指摘された。

参考文献:

浅見淳之編 (2011)『戦前期の農家簿記と農林省農家経済調査—京大式簿記を中心に—』統計資料シリーズ: No. 67、一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター。

浅見淳之 (2012)「戦前期農家経済調査の簿記デザインの変遷」稲本志良編集代表『農業経営発展の会計学—現代、戦前、海外の経営発展—』昭和堂。

草処基 (2012)「耕種・養蚕複合経営の生産技術の計測—戦前期農家経済調査の変遷と計量

分析一」稲本志良編集代表『農業経営発展の会計学—現代、戦前、海外の経営発展—』昭和堂。

草処基・丸健・高島正憲 (2012)「昭和恐慌からの農村復興期における農家の資産蓄積行動：農林省第3期農家経済調査パネルデータによる分析」*PRIMCED Discussion Paper Series*、No. 23。

栗原百寿 (1974)『栗原百寿著作集 I 日本農業の基礎構造』校倉書房。

友部謙一 (2007)『前工業化期日本の農家経済：主体均衡と市場経済』有斐閣。

速水佑次郎 (1973)『日本農業の成長過程』創文社。